



神奈川県畜産情報

発行所
神奈川県畜産会
横浜市磯子区西町14-3
畜産センター内
電話 045(761)4191
FAX 045(759)1162
発行人
志村善一

神奈川県畜産会のホームページ
「かながわ畜産ひろば」
<http://kanagawa.lin.gr.jp/index.htm>

毎月1回(1日)発行

〔神奈川県畜産情報(平成18年1月号以降)はホームページでもご覧になれます〕

定価1部10円(1年100円)
会員の購読料は会費に含む

謹賀新年



(社) 神奈川県畜産会
会長 志村 善一

平成二十五年の新春を迎え
皆様のご健勝を心から
お慶び申し上げます。

先ずは昨年の畜産会に対する多くの皆様より寄せられましたご厚情に深く感謝申し上げます。本年も変わらぬご支援、ご協力を賜りま

すようお願い申し上げます。昨年、暮れに衆議院議員選挙が行われ、自民党の圧勝で終わりました。引き続き経済不況、TPP問題、消費税の問題など、新たな政府には多くの課題が課せられています。一つ一つ丁寧に、そして迅速に、課題解決に向けた施策展開を期待するところです。

一昨年三月に発生した東日本大震災で、被災地の皆様は大変な苦労がありました。多くの方が未だに避難所生活を続けています。一日も早い復興を心から願っております。

東電福島第一原発事故で放出された放射性物質により、本県の畜産物が被害を受けましたが、畜産物では、牛肉の買い控え等による風評被害がありました。牛肉風評被害については昨年十月及び十一月に改めて賠償請求を提出したところです。東電の誠意ある回答が待たれます。

環太平洋経済連携協定(TPP)につきましては、政権交代したことで風向きが変わったと捉えていますが、今後の自民党の動向を注視していく必要があります。

TPPは、関税撤廃の例外措置を認めない完全な貿易自由化を目指した交渉であり、締結すれば日本の畜産物は壊滅し、輸入増大による国内生産は崩壊、ひいては関連産業も廃業を余儀なくされ、大幅に雇用は失われます。これでは国民の圧倒的多数が望む食料自給率の向上は到底不可能であり、食

料の安定確保も危ぶまれます。日本の畜産業を守るため、断固反対していかねばなりません。

このような中、畜産業界は今までに経験したことのない危機的な状況にあり、経営は非常に厳しく自助努力ではいかんともしがたい事態となっております。飼料価格の高騰、畜産物価格の低迷、消費の減退、畜産物の安全安心の確保等、課題が山積みしております。

乳牛につきましては、消費者の販売価格に対する反応が厳しい中で、更なる経営安定対策の実施を期待するとともに、乳牛の改良増進や自給飼料の新たな作付け・増産の検討、乳質改善により一層取り組む必要があります。

肉牛につきましては、長引く枝肉価格の低迷に加えて、原発事故の影響が重なり、素牛価格の高騰も相まって、一層厳しい経営状況となっております。素牛導入に対する支援など、具体的な支援策について、昨年暮れに行政に要望したところですが、

養豚におきましては、豚価の長期低迷が経営を圧迫しており、思い切った対策の実施が望まれます。また、最終段階にあるオーエスキー病の清浄化、更にPRRS等の慢性疾病対策が今後の課題となっております。

養鶏では、高病原性鳥インフルエンザの発生が危惧されるところで、幸いにも今シーズンは国内発生がなく、このまま推移することを願っております。

口蹄疫や高病原性鳥インフルエンザなどの悪性伝染病は、中国や台湾等日本を取り巻く各国で依然として頻発しており、今後とも予断をゆるさないところであります。畜産会としても県内への侵入防止、発生防止に向けて、国・県の防疫対応に協力してまいります。

いずれにいたしましても、畜産を取り巻く状況は、今年も厳しくなることはあっても緩むことは考えられません。畜産会といたしましては、この厳しい難局に全力を上げて取り組んでまいり所存であります。皆様の変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

新年のご挨拶



畜産課長 古性 亮彦

平成二十五年度の年頭にあたり、皆様のより一層のご活躍、ご発展並びにご健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

皆様におかれましては、新たな抱負や願いを胸に新春を迎えられたことと存じます。昨年、依然高止まりが続く飼料価格や長引く畜産物価格の低迷、そして電力供給の不安等を抱えながらの暑い夏など、畜産関係者の皆様におかれましては大変厳しい一年であったと思っております。そのような中、畜産物生産だけでなく加工・販売までの全てを自ら行う「6次産業化」を目指し、国の認定取得という難関を乗り越えて意欲的に新たな経営に臨まれる姿も増えており、明るい光の一つとなつてい

と思っております。県では昨年3月、だれもが元気で長生きでき、人を引きつける魅力あふれる県、「いのち輝くマグネツト神奈川県」の実現を目指した新たな総合計画として「かながわگرانDデザイン」を策定し、各課総力を挙げて取り組んでいるところです。

この計画の実現に向け、農業関係では「かながわ農業活性化指針」を改訂し、900万県民と多彩な人材や業種が身近にあるという都市農業のメリットを最大限に生かして、本県農業の活性化を図る施策を展開しています。この指針に位置づけた畜産の主な施策としては、安全・安心な畜産物の提供を目指すための、農場HACCPの導入支援体制の構築、畜産物の差別化やブランド化を支えるため、美味しさを評価する手法の研究・県民ニーズを捉えた畜産物の生産にマーケティング技術を活用する研究等があり、現在取り組みを進めております。

家畜衛生関係では、国内の口蹄疫の終息からようやく2年あまりが経過したところですが、高病原性鳥インフルエンザとともに依然としてアジア周辺諸国からは目が離せない緊張した状況が続いています。この間、家畜伝染病予防法の改正により、飼養衛生管理基準の遵守や県への定期報告など、畜産農家の皆様の義務も強化されてまいりました。県としても、これら重要な家畜伝染病の発生に対応するため、家畜保健衛生所を中心に防疫指導の強化・演習等も行ってまいりました。特に高病原性鳥インフルエンザについては、平成24年2月に県の発生時対応マニュアルが改正され、万の発生に際しては全庁的な危機管理体制のもと総合的な対策を講じることとなり、体制をさらに強化してまいります。

また、原発事故による放射性汚染問題では、県として、県内肉用牛飼養農家を対象とした全戸検査や県産畜産物の検査を継続実施し、検査の結果を速やかに公表するなど、畜産物の安全性を県民に広くアピールしております。

牛肉の風評被害に係る損害賠償請求については、本県の畜産農家が適切な補償が受けられるよう、中間指針の見直しについて国への要望を行ったほか、引き続き損害賠償対策神奈川県協議会への協力を行っております。

今後も、国内外の畜産物との価格競争、家畜衛生対策や食の安全性確保対策、環境対策など、畜産経営を取り巻く厳しい状況が続くと思われまますが、これまで以上に生産者の皆様、関係団体の皆様とともに畜産振興に取り組んでいく所存でございます。神奈川県畜産会におかれましては、畜産振興の中核として生産者支援にますます大きな役割を果たしていただきま

すとともに、畜産行政へのご協力にについてもよろしくお申し込み申し上げます。結びにあたり、今年が畜産にとりて大きく羽ばたく良い年になることを心からお祈りして、新年の挨拶とさせていただきます。

あさばらけ有明の月と見るまでによし野の里に降れるしらゆき
よしの野の里に降れるしらゆき
昨年の季節の移ろいは猛暑の夏から秋を素通りして、いきなり冬になってしまいましたね。日本列島の今は、よし野ならぬ北国の里を白雪で被ってしまいました。北海道では数十年ぶりの大雪による建物の崩壊、交通網の混乱、停電、更には突風に竜巻ときては生活もままならず、年末の衆議院選挙にも影響したのでしょうか。全国の投票率が戦後最低の59・32%の間では、死亡原因ははっきりはしていませんが室温と水温の寒暖の差の激しさなどから血圧の急激な変化が起きていることや、熱い湯に長く入っていると熱中症になる可能性も指摘されるとのこと。伊豆の温泉旅館に泊まったときの

食へて窒息、お風呂で溺れ 楽しみと悲しみは紙一重か

あさばらけ有明の月と見るまでによし野の里に降れるしらゆき

ライアスリットが浴槽内で亡くなっているのを家族が発見。大海原を4kmも泳ぎ渡る鉄人が小さな浴槽内で溺れるとは考えもおおまかせんでした。厚労省の人口動態調査によると、一昨年の浴槽内での溺死事故は四五四人もあつた。十二月・二月に多いこの事故には、居間と脱衣所、浴室の温度差をなくすることが重要な対策。東日本大震災の仮設住宅の温度差は大丈夫でしょうか。医療関係者

の間では、死亡原因ははっきりはしていませんが室温と水温の寒暖の差の激しさなどから血圧の急激な変化が起きていることや、熱い湯に長く入っていると熱中症になる可能性も指摘されるとのこと。伊豆の温泉旅館に泊まったときの

正月にはゆつたりと朝ぼらけの湯に浸つて溺れず、有明の月を眺めて白酒を、餅を咽ずに楽しみたい。(忠九朗)

新年のご挨拶



農業技術センター畜産技術所
所長 吉田 昌司

新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましてはお健康やかに新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

一昨年発生した東日本大震災や東京電力福島第一原子力発電所事故による放射能汚染の問題は依然として続いており、飼料価格の高騰、TPP加入問題など、畜産を取り巻く環境は厳しいものがあります。

このような情勢の中、試験研究はより効率的に取り組んでゆく必要があります。神奈川県内には複数の農業系大学があり、高度な技術や多様な人材など農業に関する知的資源を数多く保有しています。そこで、県と大学の持つ資源を活用し、都市農業を持続的に発展させ振興して

新むらすずめ

度差をなくすることが重要な対策。東日本大震災の仮設住宅の温度差は大丈夫でしょうか。医療関係者

の間では、死亡原因ははっきりはしていませんが室温と水温の寒暖の差の激しさなどから血圧の急激な変化が起きていることや、熱い湯に長く入っていると熱中症になる可能性も指摘されるとのこと。伊豆の温泉旅館に泊まったときの

いくことを目的に、平成二十四年二月、神奈川県は県内の麻布大学、東京農業大学、日本大学、明治大学の農学系大学四校と都市農業の振興に関する協定を締結しました。都市農業の様々な課題に対し大学と連携協力して試験研究に取り組むことで、効率的・効果的に課題の解決が期待できます。

当所における大学との連携では、家畜の快適性に関する試験課題で麻布大学と共同研究を行うほか、未利用資源の飼料化技術や家畜の飼養・繁殖技術の課題において連携協力により研究を進めています。また、学生の当所施設の見学や実習、卒論研究の受入など積極的な交流も図っています。

さて、昨年は米国の大干ばつによるトウモロコシ収量の激減、そしてバイオエタノール仕向けや新興国での需要増大によってもトウモロコシが不足し、穀物価格が高騰しました。今後もこの傾向は続くものと思われ、今までも増して飼料自給率向上の必要性が高まってきたと感じております。

食料残りの飼料利用などの課題を実施しており、今後も自給飼料増産やエコフレンド活用に向けて、研究と普及が連携を密にして技術開発と普及指導に取り組んでまいります。

いずれにいたしましても、畜産技術所では、皆様の経営を支援するためにさまざまな取り組みを進めてまいりますので、皆様のより一層のご協力を心からお申し込み申し上げます。

年頭にあたり、貴会の益々のご発展と、皆様のご健勝とご活躍を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

地方競馬の収益金は畜産振興に役立っています。

川崎競馬開催日

25年1月28日(月)~2月1日(金)
25年2月25日(月)~3月1日(金)

昼間開催

家畜の飼養に係る衛生管理の状況等に関する定期報告について

平成二十三年に家畜伝染病予防法が改正され、蜜蜂を除く法令対象家畜(①牛・水牛・鹿・馬・めん羊・山羊・豚・いのしし、②鶏・あひる・うずら・きじ・だちょう・ほろほろ鳥・七面鳥)を飼養している場合は飼養頭羽数に係わらず、飼養衛生管理基準の対象となり、家畜伝染病予防法第十二条の四、家畜伝染病予防法施行規則第二十一条の二及び第二十一条の三により定期の報告が義務付けられました。

つきましては、平成二十五年二月一日時点の内容を、①については同年四月十五日まで、②については同年六月十五日までに最寄りの家畜保健衛生所へ提出下さるようお願いいたします。

(県畜産課 安全管理グループ)

原発賠償対策の最近の動き

去る九月二十五日に開催した「原発損害賠償請求にかかる説明会」において、肉牛生産者の皆様の賠償請求に係る意思確認をさせて頂きました。以降、二十九名の生産者の皆様から賠償請求に係る書類が提出され、十月及び十二月の二回に亘り、東電に対し、合計三億九千九百万円の賠償請求をしたところです。

一方、長野県のADR申し立ての動向ですが、十二月二十日の新聞報道で、東電が賠償金二千万円(請求額六億円)を提示したとのこと。長野県は承服せず物別れとなった模様です。

なお、昨年九月に風評被害に係る中間指針を出した「原子力損害賠償紛争審査会」は、現在、中間指針の見直し作業を進めています。今後は、このような動向を注視

しながら、本県の賠償対策を進めていきたいと考えております。

神奈川県畜産会
045-761-4191
損害賠償対策協議会
045-680-3005
(県畜産会専務理事 丹波)

新マルキン事業

『平成二十四年度の補填金単交付金について』

肥育牛生産者を取り巻く情勢が大変厳しいことから、平成二十三年度第2四半期以降の補填金について毎月交付が続いております。毎月の個体登録・販売申出報告の漏れがないようにご留意下さい。

『二十四年度第2四半期九月及び第3四半期十月販売牛の補填金単価報告』

◎九月販売牛補填金単価
肉専用種 四六、三〇〇円
交雑種 一一、〇〇〇円
乳用種 八二、二〇〇円

★補填金交付日
平成二十四年十一月二十六日

◎十月販売牛補填金単価
肉専用種 五〇、一〇〇円
交雑種 一一、〇〇〇円
乳用種 七七、八〇〇円

★補填金交付日
平成二十四年十二月二十五日
(経営指導部 倉迫)

かながわの畜産に携わる女性ネットワーク会員募集

女性ネットワークでは、広く県内の畜産に携わる女性の会員を募集しています。

会では、情報交換・情報の提供のほか、研修会、優良事例・関係機関等の視察、行政・関係団体等との意見交換会等を年間の行事として実施しております。これらの活動を通して個々の資質の向上を図り、経営の安定化に繋げ、神奈

川の畜産をより立てていくこととされています。都市畜産の安定経営の維持・振興には、生産、流通、販売等直接的な関わりだけでなく、団体、行政など様々な形で畜産に携わる女性のきめ細かい視点が今まで以上に重要になってきています。多くの皆さんの参加をお待ちしています。

会費・年間五千円(一家族5千円)
(畜産会専務理事 丹波)

神奈川県飼料作物奨励品種の選定について

県飼料作物奨励品種とは

県では、自給飼料の生産拡大を図るため、農業技術センター畜産技術所において、県内の気候、風土、利用形態等に適する多収量で良質な飼料作物の品種比較試験を行っています。この結果をもとに作付奨励できる優良品種を選定し、神奈川県飼料作物奨励品種に定め、普及を図っています。

平成二十四年十二月に県内の栽培に適した高収量が見込まれる十草種三十四品種の飼料作物を選定しましたので、是非ご利用ください。なお、紙面の都合上、主要な草種のみを掲載しております。その他の草種については、神奈川県畜産技術所のホームページをご確認ください。

栽培利用上の留意点

奨励品種は耐病性、収量性等に優れ、本県の気候に適した品種ですが、播種適期・適正栽植本数等を守ることで、その品種の特性が最大限に発揮されます。病害虫の発生や倒伏は、品種の持つ抵抗性、生育上の栽培・環境条件等、これらの相互関係によって生じますので、ご留意の上ご利用ください。

草種、品種の特徴や栽培方法、収穫調整等の技術的なことに関するご相談は畜産技術所まで、その

他については県畜産課畜産振興グループまでお問い合わせください。

農業技術センター畜産技術所
046-238-4056(代)
県畜産課畜産振興グループ
045-210-4511(直)
(畜産振興グループ 甲斐 崇)

【イタリアンライグラス】

品種名	早晩生	利用型	主な特性
ハナミワセ	極早生	極短期	直立型でアップライトリーフ 耐倒伏性極強、早春から生育旺盛
タチワセ	早生	短期	直立型でアップライトリーフ 耐倒伏性極強、早春から生育旺盛で多収
ワセアオバ	早生	短期	直立型で草丈高く、耐倒伏性強 早春の生育旺盛、水田・畑地裏作に適する
ワセユタカ	早生	短期	直立型、茎が太く、多葉で早春の収量性が高い 水田裏作に適する
タチマサリ	早生	短期	直立型、草丈高い 耐倒伏性強、早春から生育旺盛で多収
タチムシャ	中生	短期	直立型、草丈高く、早春から生育旺盛で多収 耐倒伏性やや良好
マンモス イタリアンB	早晩生	中長期	偏直立型、耐倒伏性やや良好 初期生育旺盛
エース	晩生	極長期	ややほふく型で茎太、草丈高く、莖葉が大きい 再生力が高い

【トウモロコシ】

品種名(系統名)	RM	早晩生	耐倒伏性	主な特性	指定年次
ゴールドデント KD500 (KD500)	100	極早生	◎	乾物率が高い 二期作栽培の1作目に適する	H23
パイオニア 106日 (36B08)	106	極早生	◎	アップライト草姿 乾物収量多い、根腐病に強い	H15
スノーデント 110 (LG3520)	110	早生	◎	乾物収量多い、二期作栽培の1作目 にも利用できる	H19
パイオニア 115日 (34B39)	115	早生	○	初期育成良好 乾物収量多い、根腐病に強い	H20
スノーデント 115 (SH4681)	115	早生	○	乾物収量多い 雌穂割合が高い	H19
パイオニア 115日 (セシリア)	115	早生	◎	初期生育良好 雌穂割合安定、根腐病に強い	H7
ゴールドデント KD670 (KD670)	117	早中生	◎	初期生育良好 乾物収量が多い、根腐病に強い	H14
Z-CORN 118 (ZX4101)	118	早中生	◎	乾物収量多い 子実・莖葉バランス良い	H19
スノーデント 118 (DKC61-24)	118	早中生	○	乾物収量多い 雌穂割合が高い、根腐病に強い	H16
Z-CORN 120 (ZX7605)	120	中生	◎	初期生育良好、乾物収量多い アップライト草姿	H14
パイオニア 120日 (31P41)	120	中生	○	乾物収量多い 根腐病に強い	H22
スノーデント 125V (SH3817)	125	中生	◎	乾物収量多い、根腐病に強い 二期作栽培の2作目にも利用できる	H18
スノーデント 125わかば (SH3815)	125	中生	◎	乾物収量多い 稈径太い	H21
パイオニア 135日 (30D44)	135	晩生	△	乾物収量多い 二期作栽培の2作目に適する	H23

家保だより

畜舎に侵入するものは?

あけましておめでとうございませす。本年もよろしくお願いたしました。

さて、今年の干支は巳年であり、昨年、とある養鶏場の巡回の際に鶏舎に張った防鳥ネットにへビが絡むことがあるというお話を伺いました。防鳥ネットは、2センチ以下の細かい網目のため、途中で身動きがとれなくなるようです。

畜舎に侵入する動物には、ハト、カラス、スズメなどの野鳥の他、ネズミ、ネコ、イヌ、ハクビシンなどがいます。これらの動物は、鳥インフルエンザウイルスの他、サルモネラやクロストリジウムなどの病原体を持ち込んだり、卵や家畜の飼料を食べたり、家畜に怪我をさせたりします。

平成二十三年、飼養衛生管理基準が見直され、野生動物による病原体の侵入防止を図ることが家畜飼養者に求められました。具体的には、畜舎の給餌設備・給水設備及び飼料の保管場所にネズミ、野鳥等の野生動物の排せつ物等が混入しないように注意してください。

また、普段から飼槽などの給餌設備やウォーターカップなどの給水設備を清掃し、給餌の際には餌槽を確認して排せつ物があった場合にはこれを取り除くなどお願いします。昨年、国内には高病原性鳥インフルエンザや口蹄疫の発生はありませんが、海外では、オーストラリアに高病原性鳥インフルエンザの発生が、中国・台湾に口蹄疫の発生が報告されており、これら発生国への海外渡航の自粛をお願いするとともに、飼養衛生管理基準の遵守についてよろしくお願いたします。

また家畜伝染病予防法の改正により、毎年二月一日現在の家畜の飼養頭数および衛生管理状況について、定期報告を提出していただくことになりました。皆様にはお手数をおかけしますが、飼養衛生管理基準を再確認していただくことにも提出について御協力をお願いいたします。

(県中央畜保健衛生所 荒井)

大野山たより

県の危機的な財政の再建を目指した「緊急財政対策」が十月に示され、県民利用施設・出先機関の見直しとして当牧場及び「まきば館」が「廃止を含めた検討」という厳しい結果となりました。

その理由は、「例年県外に預託されている乳牛の四百五十頭のほとんどが北海道など他県へ預託され、当場の受け入れ頭数は八十頭と約一割であること。県内の乳牛飼養頭数は減少傾向にあるため、当該施設の役割は薄らぐていること。放牧地のほとんどが急傾斜であり、管理に関する専門性や特殊性が非常に強い。他の移譲は困難であること」です。

生産者や関係機関・地元住民からの意見を聞くために各地で畜産課主催の説明会を開きました。会場では酪農家から「もう既に役割を終えたのではないのか」、「近年は北海道に匹敵する立派な育成牛を出している」、「大野山を無くさないで欲しい」という声が多く聞かれました。牧場職員としては大変張り合いのある励みとなりました。実際平成二十四年度神奈川県乳牛共進会の経産部門の六類では当牧場が育成した相模原市の牛がトップを取るといふ快挙を成し遂げ、実績が上がりつつあるところです。

地元の説明会では県が手を引けば、山が荒れてしまうことを切実に心配し、何らかの防災措置を取るよう、また、せつかくの景観を活かした観光資源として何とか利用できないかなど声が挙げられました。四月には「山開き」、十月には「フェスティバル」、十一月には地元の国の重要無形文化財に指定された「お釜入り」の行事が大野山山頂付近でも開催され、十二月には頂上で全国山岳ガイド協会のイベント「関東富士見百景」にも指定された、県として誇りうる、地域にも密着した施設であります。まきば館で畜産課主催で行われている畜産交流教室は例年三十回、千二百人の参加者があり、着実に定着し畜産の啓発に貢献しています。

神奈川県の財政状況の中で、今のままで運営をしていくことは困難ではありませんが、皆さんからの声を尊重し、県の方針に反映させていきたいと思います。

(大野山乳牛育成牧場長 青木)